

第1回「子どもと家族を応援する日本」 重点戦略検討会議「基本戦略分科会」	資料3-1
平成19年 2月27日	

「将来推計人口(平成18年12月推計)の概要」

将来推計人口(平成18年推計)の概要

国立社会保障・人口問題研究所
平成18年12月(20日)公表

- 将来推計人口は、社会保障・人口問題研究所が、国勢調査等の客観的データに基づき、概ね5年ごとに将来の人口を推計。
- 今回の推計は平成17年国勢調査結果に基づき、2055年までの日本の人口を推計。
(参考推計として、2105年まで推計)

合計特殊出生率の仮定

(2005)		(2055)
1. 2 6	⇒	高位 1. 5 5 <1. 63> 中位 1. 2 6 <1. 39> 低位 1. 0 6 <1. 10>

※ <>内は前回推計(H14)の2050年の仮定値

非婚化、晩婚化の進行により、合計特殊出生率は、前回推計の仮定より低下。

平均寿命の仮定

(2005)		(2055)
男 78.53歳 女 85.49歳	⇒	中位 男 83.67 <80.95> 女 90.34 <89.22>

※ <>内は前回推計(H14)の2050年の仮定値

将来推計人口(平成18年中位推計)の結果

日本の総人口

2005年	→	2055年
1億2,777万人		8,993万人

老年人口(65歳以上)

2,576万人	→	3,646万人
[20.2%]		[40.5%]

生産年齢人口(15~64歳)

8,442万人	→	4,595万人
[66.1%]		[51.1%]

年少人口(0~14歳)

1,759万人	→	752万人
[13.8%]		[8.4%]

前回推計(H14中位)の結果

日本の総人口

2000年	→	2050年
1億2,693万人		1億 59万人

老年人口(65歳以上)

2,204万人 [17.4%]	→	3,586万人 [35.7%]
-----------------	---	-----------------

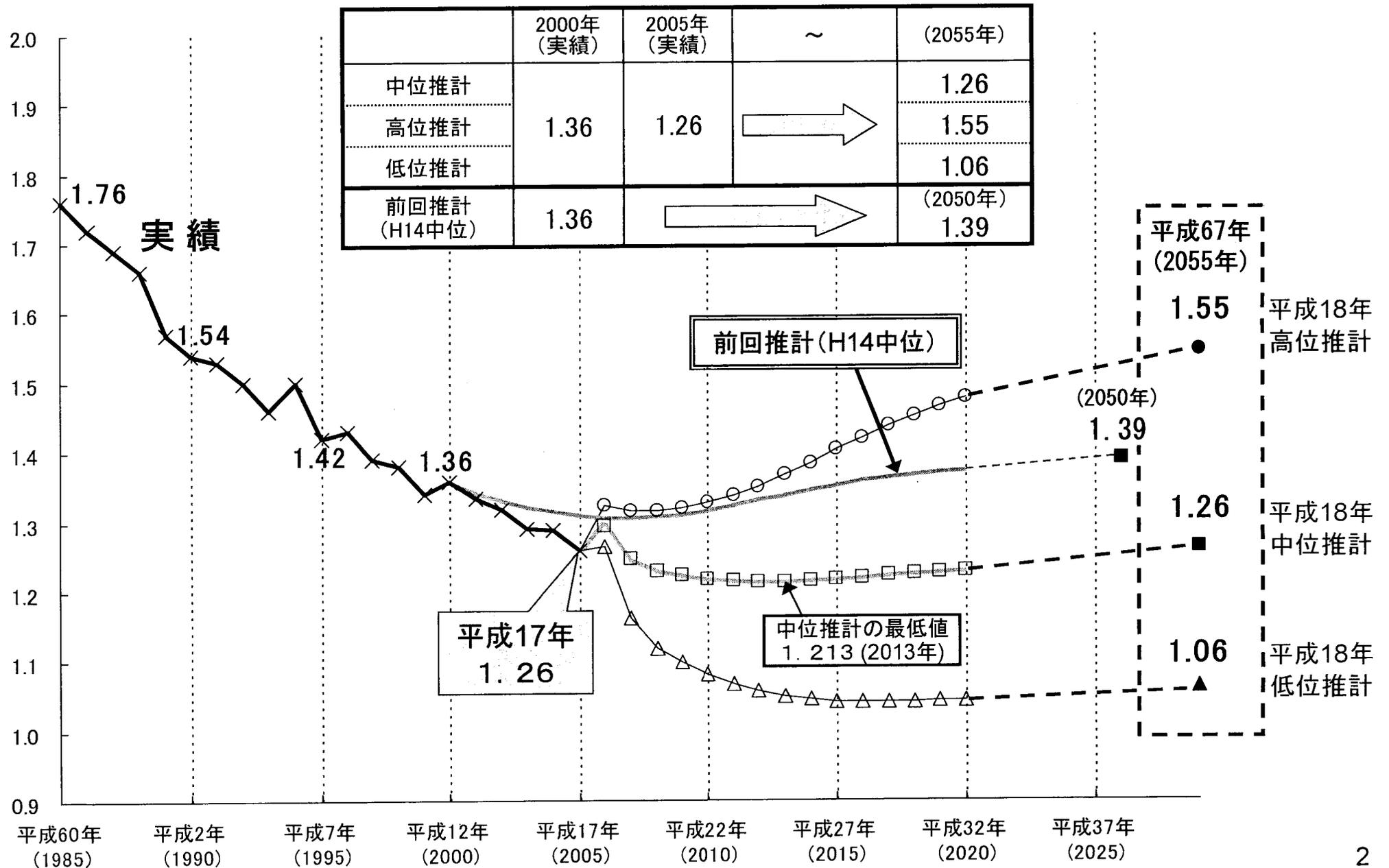
生産年齢人口(15~64歳)

8,638万人 [68.1%]	→	5,389万人 [53.6%]
-----------------	---	-----------------

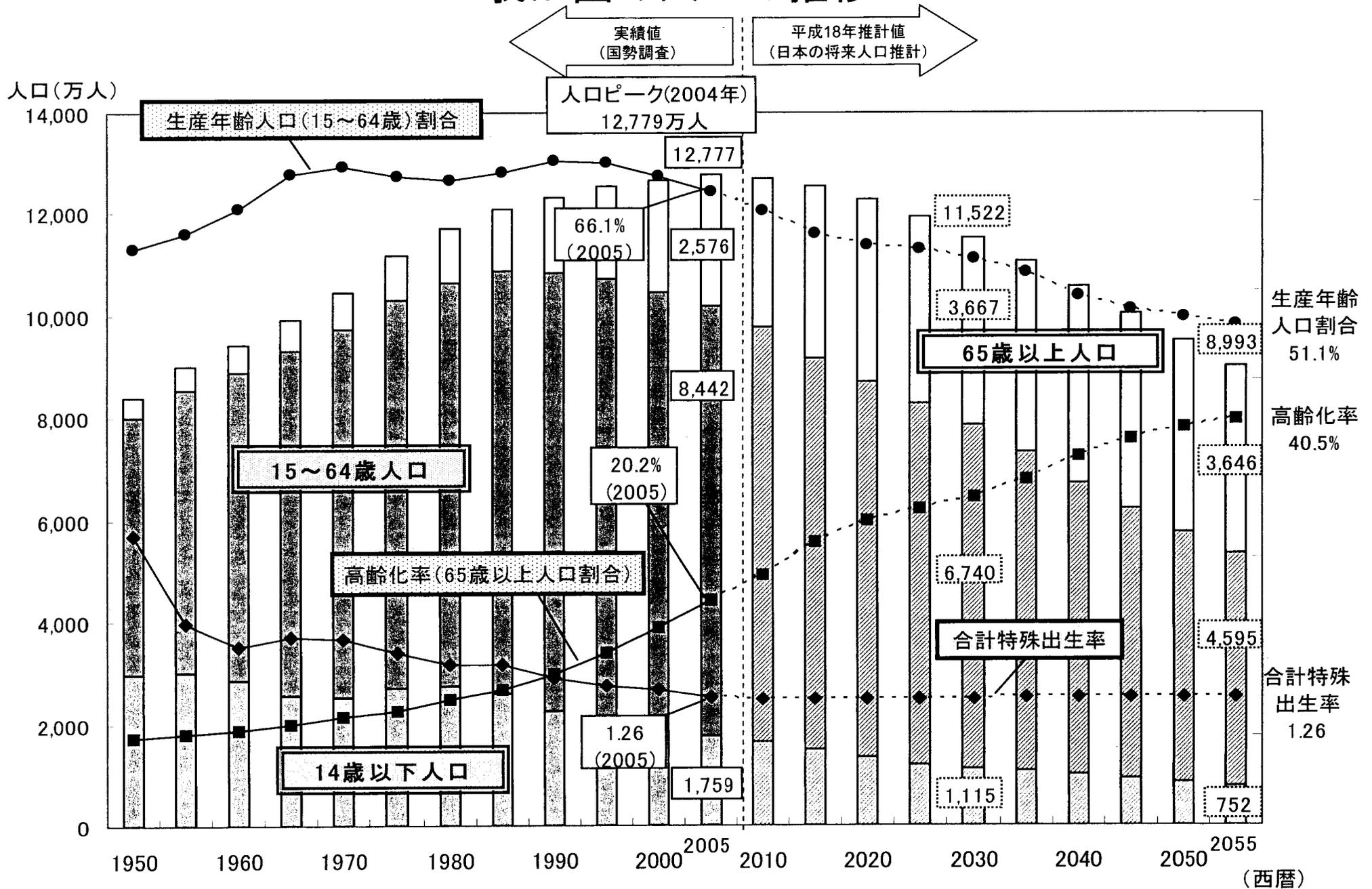
年少人口(0~14歳)

1,851万人 [14.6%]	→	1,084万人 [10.8%]
-----------------	---	-----------------

合計特殊出生率の推移と将来人口推計(平成18年推計)における仮定値



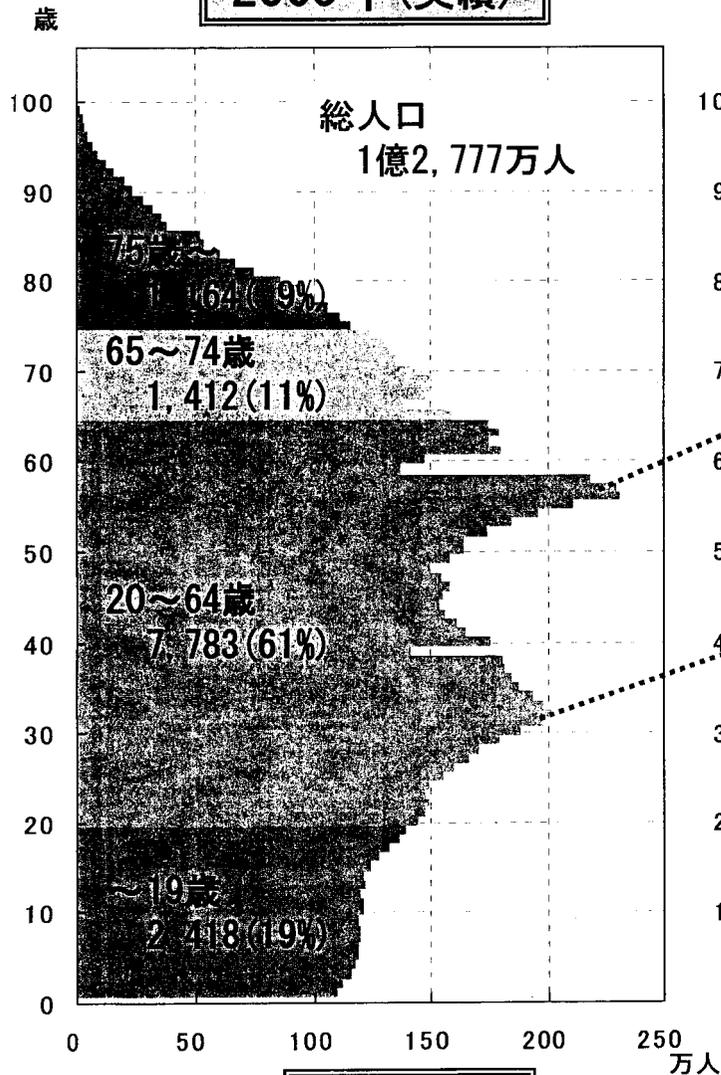
我が国の人口の推移



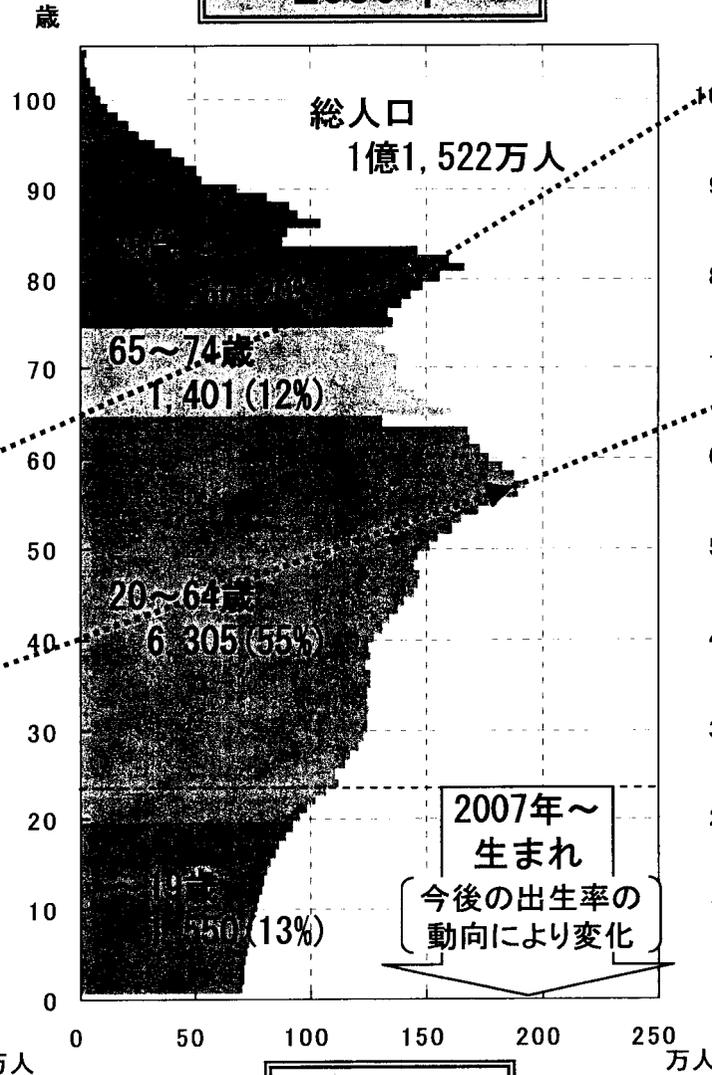
資料: 2005年までは総務省統計局「国勢調査」、2010年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)中位推計」

人口ピラミッドの変化(2005, 2030, 2055) - 平成18年中位推計 -

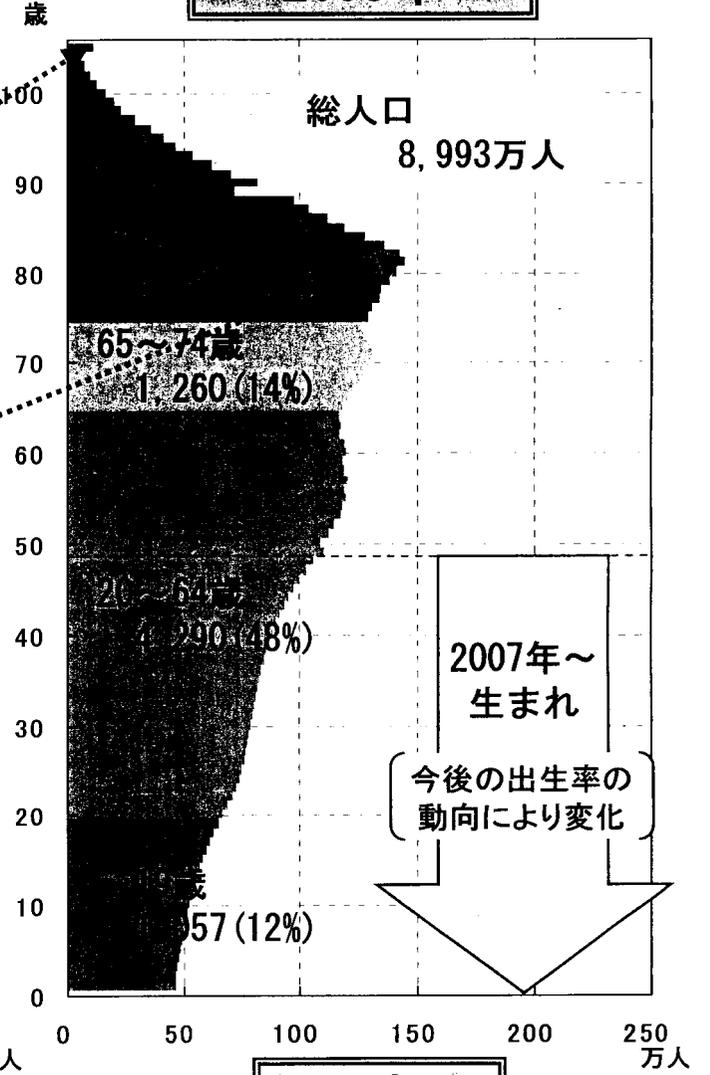
2005年(実績)



2030年



2055年



65歳～人口
20～64歳人口

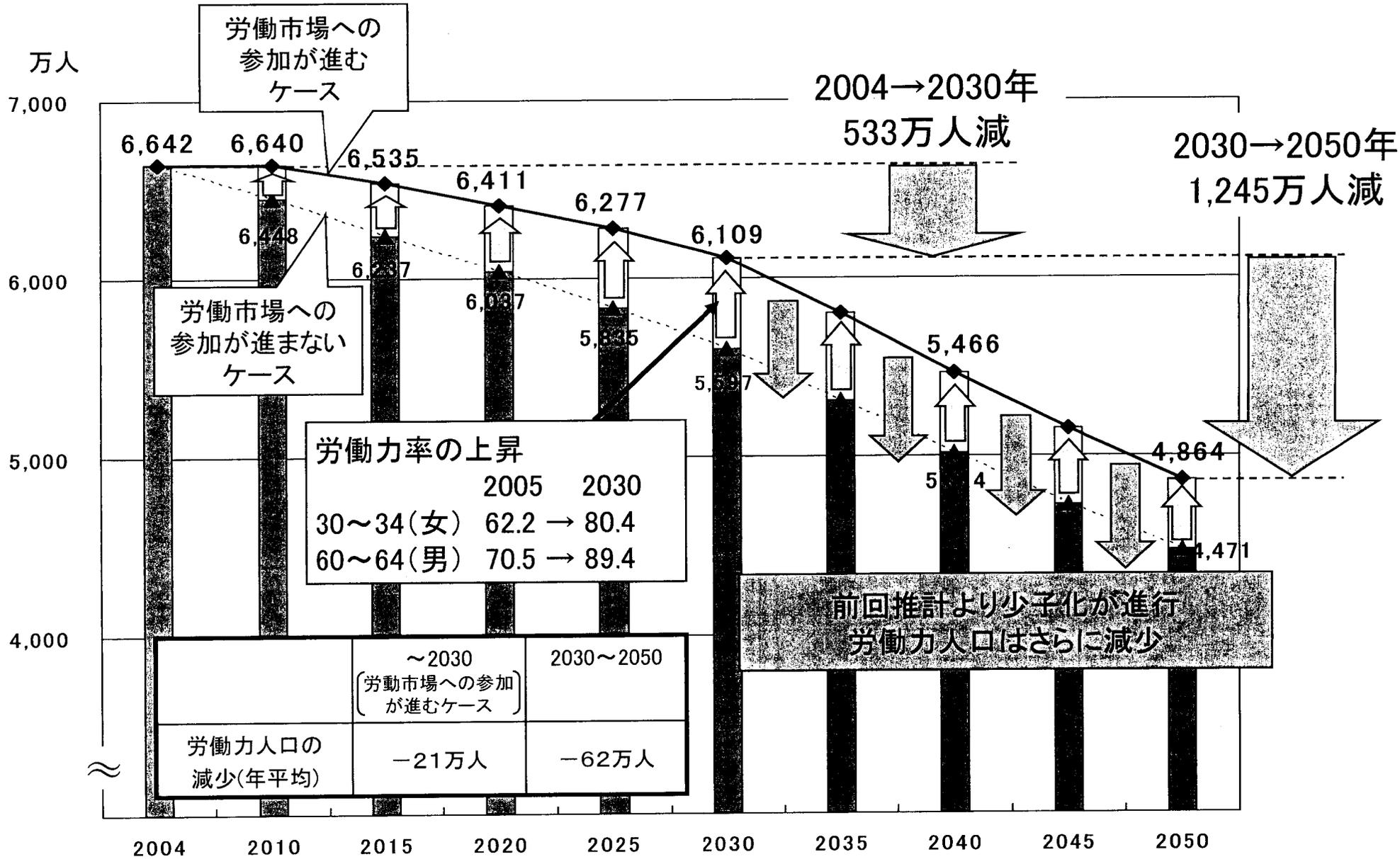
1人
3.0人

1人
1.7人

1人
1.2人

注:2005年は国勢調査結果(年齢不詳按分人口)。

(参考) 労働力人口の将来見通し(平成14年将来推計人口による)



注: 労働力人口は職業安定局推計(2005.7)。ただし、2030年以降の労働力人口は2030年の年齢階級別労働力率が変化しないと仮定し、平成14年将来推計人口(中位推計)に基づき、社会保障参事官室において推計。